

ワークショップ2: 在宅医療における泌尿器科医の役割

在宅医療においてライフ（生活・生命・人生）を支える下部尿路機能診断・治療・ケア

国立長寿医療研究センター 摂食嚥下・排泄センター高齢者下部尿路機能研究室¹⁾国立長寿医療研究センター 泌尿器外科²⁾西井久枝*¹⁾²⁾・杉原嘉一²⁾・野宮正範¹⁾

抄録:

下部尿路症状（LUTS）の診断、治療、およびケアは、高齢者の在宅医療において極めて重要な課題である。泌尿器科医は専門家として、LUTSを正確に診断・評価し、高齢者の個別ニーズに応じた適切な治療やケアを提案する上で中心的な役割を担っている。また、多職種チームとの連携により提供される持続可能な治療やケアは、家族介護者の負担を軽減し、患者およびその家族のQOL（生活の質）の向上にも貢献することが期待される。

(西日泌尿. 87: 197-198, 2025)

キーワード: 下部尿路症状, 在宅医療, 多職種連携, QOL 向上

本邦では身体機能や認知機能の低下によって重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの整備が進められている。この地域包括ケアシステムの中で、病院や診療所以外の場所、すなわち居宅、老人ホーム、介護老人保健施設等において提供される医療が在宅医療である。在宅医療の目的は、入院医療からの在宅療養への移行をスムーズにし、患者やその家族の精神的・身体的負担を軽減しながら、QOLを向上させることである¹⁾。

介護認定の有無にかかわらず、在宅高齢者の多くが夜間頻尿や尿失禁といったLUTSを抱えていることが報告されている。在宅高齢者におけるLUTSは適切な評価や治療が行われず、受診もされていないケースが少なくない²⁾。また、不要な尿道カテーテルの長期留置や不適切なおむつの使用といった管理上の問題が見られることも課題である³⁾。さらに、認知機能が低下した高齢者では、認知機能の低下が軽度の段階から昼間頻尿、夜間頻尿、尿失禁といったLUTSが生じやすく、進行とともに移動に介助を要する、強い尿意を訴えるが実際は排尿しない、排泄物の臭いが気になる、トイレの操作が困難になる、不潔行動がみられる、排尿ケア中の暴力や暴

言が生じる、などの問題が顕在化し、介護者の身体的・精神的な負担が増加することが報告されている⁴⁾。

国立長寿医療研究センターは急性期治療を終えた患者や在宅生活が一時的に在宅生活が困難となった患者を対象に在宅復帰や在宅医療・介護を支援するための地域包括ケア病棟を有している。ここでは、入棟後1週間以内にも多職種による協働カンファレンスを開催し、入棟までの経過、キーパーソンや続柄・年齢・同居の有無などの家族構成、住宅環境、介護保険利用の有無や詳細、当院通院診療科やかかりつけ医の有無、食事準備・片付け、摂食、入浴、排泄、移動・移乗、洗濯、買い物や通院、掃除、服薬管理、住宅環境などの情報収集と共有を行う。医療・看護・リハビリテーション・薬剤師・栄養士等の多職種が介入し、中間評価として、患者の在宅療養準備を支援するために、食形態の調整、医療指導、服薬管理指導、介護指導、栄養指導を行うとともに、家族や在宅療養関係者によるリハビリテーションの見学を手配している。下部尿路機能障害については、本人の症状の把握、排尿記録、超音波機器を用いた残尿量の測定などで評価を行い、介入の必要があるケースについては主担当医から泌尿器科へコンサルトし、内服薬の見直しや下部尿路機能障害治療薬が開始となる。本人の身体機能や認知機能に応じた排尿環境整備、排尿誘導などを病棟看護師と病棟療法士が協働で行う。中間カンファレンスで、家族やケアマネジャーや訪問看護師やかかりつけ医を含めた在宅療養関係者と本人の下部尿路機能の現状、介入の成

* 〒474-8511 愛知県大府市森岡町7-430

TEL 0562-46-2311, FAX 0562-44-8518

受付日: 2025年1月14日

受理日: 2025年2月6日

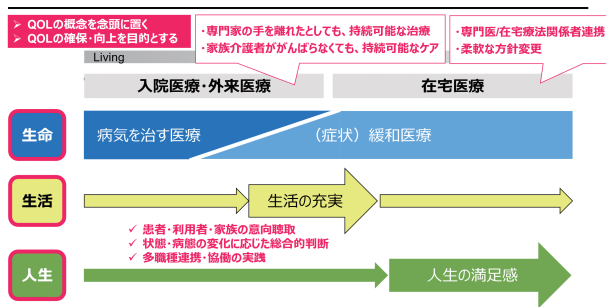


図1 在宅医療においてライフを支える下部尿路機能治療・ケア

果、在宅療養環境について情報共有および意見交換を行う。やむなく尿道カテーテル留置管理となったり、介助者によるおむつ交換が必要になるケースも多いが、それぞれの管理のメリット・デメリット、泌尿器科専門医受診の目安などを説明し、自宅退院後も持続可能な排尿管理方法を提案するようにしている。

身体機能や認知機能が低下した高齢者に対する在宅医療において、「生命」「生活」「人生」に直結する下部尿路機能の診断・治療・ケアは非常に重要である。泌尿器科医には、専門家として下部尿路機能を正確に診断し、

適切な治療を行うだけでなく、病態や高齢者の個々の状況に応じた柔軟な治療やケアを提供することが求められる。また、家族介護者の負担軽減を図り、多職種チームとの連携を推進することも重要な役割である。これらの取り組みにより、患者およびその家族のQOLの向上が期待される。(図1)。

文 献

- 1) 横倉義武・大島伸一・辻 哲夫・新田國夫・他：在宅医療，P.87，中央法規。
- 2) 西井久枝・他：多職種医療人による超高齢時代の排尿管理 健康長寿を目指した高齢者排尿管理における多職種連携。西日本泌尿器科 80 巻 5 号：208-219, 2018。
- 3) 島崎亮司・浜田きよこ編：在宅医療の排尿管理と排泄ケア，P. 20-21，南山堂。
- 4) Kamiya M, et al.: The current state of family caregiver burden and support of toilet problems for elderly with mild cognitive impairment and Alzheimer's disease. Int J Urol. **30**: 539-546, 2023.

THE ROLE OF UROLOGISTS IN IMPROVING THE QUALITY OF LIFE OF ELDERLY INDIVIDUALS IN HOME HEALTHCARE

HISAE NISHII AND MASANORI NOMIYA

Department of Geriatric Lower Urinary Tract Function, Center for Swallowing and Continence,
National Center for Geriatrics and Gerontology, Aichi, Japan

HISAE NISHII AND KAICHI SUGIHARA

Department of Urology, National Center for Geriatrics and Gerontology, Aichi, Japan

Abstract

The diagnosis, treatment, and management of lower urinary tract symptoms (LUTS) are crucial aspects of home healthcare for older adults. Urologists play a vital role in accurately diagnosing and treating LUTS, providing personalised care tailored to the individual needs of elderly patients. They also contribute to reducing the burden on family caregivers. Furthermore, multidisciplinary collaboration significantly enhances the quality of life (QOL) for patients and their families.

(Nishihon J. Urol. **87**: 197-198, 2025)

key words: Lower Urinary Tract Symptoms (LUTS), Home Healthcare, Multidisciplinary Collaboration, Quality of Life (QOL)